

第4回 中山間地域振興特別委員会記録

日時：令和2年2月17日(月)

13時03分～15時00分

場所：第4委員会室

【出席者】 田畑委員長 布施副委員長
川上委員 柳楽委員 野藤委員 ~~上野委員~~ 飛野委員 永見委員

【議長団】

【委員外議員】

【執行部】

【事務局】 古森局長 下間係長

議 題

- 1 「農林地の維持管理対策、耕作放棄・鳥獣被害防止対策」について
(意見交換)

【参考】

テーマ3「農林地の維持管理対策、耕作放棄・鳥獣被害防止対策」に係る課題

- (1) 農業・林業の担い手・事業承継者の確保
- (2) 畦畔の草刈の方策
- (3) 有害鳥獣被害（イノシシ、クマ、アライグマ等）
- (4) 農林道の危険木・支障木の撤去等
- (5) 耕作放棄地対策
- (6) 山林の不在地主の増加
- (7) 集落営農の再編（組織運営や共同購入した機械の維持管理の限界）

2 その他

- (1) 地域井戸端会の集約意見について

○次回開催 2月 28日（金） 一般質問終了後 第4委員会室

田畑委員長 第4回中山間地域振興特別委員会を開催する。本日上野委員から欠席届が出ている。7名で定足数に達しているため委員会を行う。

1. 「農林地の維持管理対策、耕作放棄・鳥獣被害防止対策」について

田畑委員長 前回の第3回委員会において3つ目のテーマの7つの中項目について、45件の資料要望に対して執行部から説明を受けた。

本日は意見交換の場とするが、「この課題はこの解決策をもって提言したいこと」を考えてくることとしていたので、委員の皆から、それぞれの課題や意見をお聞かせいただきたい。

なお、本日の会議時間は2時間程度を目安とし、次回も意見交換の回としたいと思っている。進め方は、中テーマごとに、委員から発言してもらい、その後、自由討議としたい。

(1) 農業・林業の担い手・事業承継者の確保

川上委員 まず(1)について、川上委員から順にお願いする。

川上委員 関係人口を増やすのが一番大事だ。そのための施策を考えていくべき。地域での活動の場を提供すること、どのように将来の移住につなげるかも検討するべき。

野藤委員 担い手確保をやろうという意欲がわくような事業スキームを示さないと、やってくれというだけでは難しい現状だ。興味のある人、地域の魅力を発信し、農業・林業をやるにはどの程度の規模が必要で、どれくらいやれば利益が出るか具体的に示さないと、ただ声高に言っても難しい。軌道に乗るまでは補助金を入れることも必要だろうが、まず生活できる可能性を示す。地域の別の仕事をしながらということもあるだろう。年間収支計画を示すべき。

飛野委員 集落戦略の中でも担い手問題が一番頭の痛い部分。とはいえこれといった策はない。一般的ではあるが、都会で定年を迎える身内の方に親御さんからも声かけをしていただき、呼び返すのはどうか。そのための魅力づくりくらいしかないかと思う。

布施副委員長 特に農業の場合は、興味のある方、U・Iターンも含め新規就農者を探すのが先決だ。2019年から森林環境譲与税が各市町村に配布される。その中で担い手の事業にもお金を使うことになっている。浜田市が19年度に交付されるのは2100万円ちょっと。そのお金を使って地域おこし協力隊で自伐型林業の講習を受けている方に、定住対策としても、地域おこし協力隊として林業に従事していただくように、譲与税を使ったらどうか。

永見委員 男女問わず、女子林業者を求める方法もある。

永見委員 農業は水稻が大半だが、なかなか採算が合わないため農業に魅力を感じにくい。若者に魅力を与える施策を示し、兼業でも農業に従事できる環境をつくれれば、担い手づくりに効果があるのでは。

柳楽委員

どの程度の規模の担い手を考えるのか疑問がある。広い敷地を持っている人から受け継ぐ形なのか、放棄地を小さく区切って小規模な担い手を募るのか。浜田市でもまちに住んでおられる方が奥部の土地を借りて農業をされる事例がある。また、県外事業者が市内で農業を始める事例もある。魅力がないと難しい。担って欲しい方が魅力を考えるのは難しいので、自治体で魅力を示せるならそういうことも必要かと思う。

布施副委員長
田畑委員長

上野委員の意見は、新規就農相談会で農業に興味のある人材を探す。魅力や興味がある人もだが、まず農業で生計が立てられる見込みがないと難しい。農閑期をどう過ごせるか。収支バランスが合わないと新規に人は来ない。トラクターで道路を走れなくなり、大型特殊免許が必要になり、資金がない人はあきらめざるを得ない。自分で販路開拓できるような人でないと難しいように思う。

では自由討議とする。

川上委員

事業承継について、多世代同居、近隣住みのケースが減った。それを進めるためにはどうするか。山間部では農業はサブでありメインは出ていったの仕事。企業を誘致して、企業の理解を得て、週に一度農業に携わるなどのシステムが必要ではないだろうか。

布施副委員長

川上委員と同意だ。農業もだが林業も衰退理由は儲からないから。本業にはできなくても、自分の土地があって、林業も農業もどちらも並行でやることを勧める。担い手を探すなら自分の代で終わるのか、次世代にも守ってほしいのか明確化して、できないなら森林組合のような所が管理して儲かる仕組みを作っていく方法もある。(6)にも通じる話。

誰が持ち主か分からない土地や山があるのも問題で、はっきりさせることが重要だ。

永見委員

水稻は生計が合わない。林業は何十年単位。木材価格もかなり下落しているので採算が合わない。そういう点から改善していかねば、担い手が育たない。水稻も木材も販売しても利益が出ない。そういうところから考えていくべきだ。

野藤委員

やってみたいと外からやってくる者にいきなり専業は無理だろう。野菜ならどうか。どうしても二足三足のわらじを履かないと生活できない。始めたばかりの人は規格・品質がそろわないものだが、それでもお金にできる仕組みが必要。

田畑委員長

農業で儲けようと思えば、有機、野菜、ハウスだろう。浜田市の専業農家はほとんどがハウス。こうした人が儲かっている。販路を持っている人は全部千葉へ売る。

野藤委員

瑞穂の道の駅に先日立ち寄った。好きな人は野菜のことを語ってくれた。そういうところなら不恰好でも高く売れるのでは。

魚でも野菜でも、福岡へ個人販売ルートを持っている人が浜田にもいる。作って農協へ出して買ったたかれるよりも、販路を持つべき。

布施副委員長

魅力があって生活できる稼ぎがあるかどうかは次の担い手に大きくかわる。これは日本全国の問題である。若者だけでなく、年齢関係な

- く「担い手」が必要。アクションが必要。
- 柳楽委員 浜田市も農業研修生を受け入れ、金城の例だとブドウを作っていた所を引き継いでそこそこ成功されている。そういう事例をもっと皆に知っていただく必要がある。成功者も相当努力されていると思うが、成功事例を伝えてもらうことも大事なかなと思う。
- 川上委員 初期投資が一番お金がかかるので、そこで十分手当をする。利益が出るまでに数年かかるので、その間の手当をしっかりする。
また、スモールビジネスの参入を期待している。関係人口の中でスモールビジネスを考えなければならない。
- 布施副委員長 また、地域で農業を一緒にやっているのは誰か。定年後に体が動く方がやっている。その人は年金があるからできるのだ。何かバックアップがないとできない。5年なら5年で良いので、やってみませんか、その間の固定資産税は取らない、そういった思い切った施策が必要では。
- 田畑委員長 上野さんの意見で言い忘れたことがある。補助金ありきの考え方は返上しないと続かない、とのことだ。
- 野藤委員 専業は4丁くらい作らないと収支があわない。そうになると販路が要る。1500万円くらい投資した機械が壊れたら辞め時を意識してしまう。
- 布施副委員長 農業者は長生きが多いが、そういう点はPRにならないのか。健康的にいいのかなど。なおかつ医療機関も介護も充実していれば外部から人が呼べるかもしれない。
- 柳楽委員 生活するために農業するわけではないだろう。中山間地域のテーマなので、生活に直結するような農業の仕方に目を向けさせる。農業は半年、林業は50年後、そのサイクルをもう少し狭めるアイデアがあれば多少はよくなるのでは。
- 永見委員 作物の選定も考えないといけないのかなと思う。水稻にこだわり続けるのかどうか。
- 柳楽委員 実際に水稻が主体になっていて、他の作物を栽培するためには相当な投資をしなければいけないので無理だと思う。今年は稲を植えないから今年はほうれん草を植えよう、というわけにはいかない。他作物に転換できる仕組みを作るには相当な経費がかかる。
- 田畑委員長 大豆と米を交互に作っている人がいるので、作物によるのでは。担い手といっても土地を持っている方が担い手を必要とするかどうか問題だ。
- 野藤委員 土地に執着している方は無理だろう。とにかく儲かる、生活できる収支バランスにならないと難しい。
- 川上委員 儲からないにしても生活できる水準、人に雇用されている時と同等レベルの暮らしができるかどうか。そういう考えの人をいかに捕まえられるか。
- 柳楽委員 いかに魅力があるかを見せないといけない。魅力とは何か。浜田は暮らしやすいといっても、本当にそうだろうか。病院もない店もない所もある。しかし本当に山奥の暮らしが好きな人もいる。いかに需要と供給

	をマッチングさせられるか。そういう意味合いで、農林業支援センターの見直しも必要と考える。
野藤委員	ポツンと一軒家に憧れる人もいる。住むと不便なことも出てくる。弥栄にしても金城にしても小さな拠点づくりが必要。農業だけで引きつけるのは難しい。浜田で生活できる暮らしの魅力を伝えられたらいい。
川上委員	過疎債をそういうことに使っていただきたい。情報発信に手を入れて人を配置する。農業に特化した人材を配置しての情報発信が必要。
田畑委員長	おおむね意見は出尽くしたと思うので次へ進む。

(2) 畦畔の草刈の方策

	野藤委員から願います。
野藤委員	センチピードグラスやコンクリートで固めるなど、省力化できるような最新の方法を入れるしかない。草刈の好きな人もいるのでは。ガソリン代や弁当を出してやってくれる人はいないだろうか。
飛野委員	芝生化は避けて通れない。受益者負担が 35 パーセント変わるが、5 パーセントにすべき。草刈隊は元年度に内容をまとめ、2 年度から草刈隊を展開していくことになっている。この 3 月 17 日に視察研修をまちづくり推進委員会主催で開催する。雲南市、松江市に視察しに行く。この委員会からもこの視察に同行すべきと考える。
布施副委員長	中山間地域の草刈なので、ラジコン除草機は高額だが、集落営農だけでなく、個人的にも貸し出していただけるような機器を充実すべきだ。センチピードグラスを吹き付ける機械を増やし対応すべき。効率化を考えたら機器を増やす、技術革新すれば今より安くなる。拠点には浜田市が配置すべき。
永見委員	私にはセンチピードグラスの効果がわかりかねる。秋には草刈りが要となるとセンチピードグラス自体も伸びるのでは。課題解決事業で、草刈の軽減のため機器を入手している。こうした方法も研究する必要もある。
柳楽委員	地域によっては法面が広い所もある。草刈を請負の仕事にされる方のことも考えた方が良いのかなど。省力化できる機械などの情報収集も必要かと思う。
布施副委員長	上野さんの意見は、センチピードグラスは効果があるが、浜田市内では弥栄に 1 台しかない。浜田にも 1 台あれば良いのでは。
川上委員	国が推薦しているのは広域化で、そうすると補助金が出る。しかし広域化については加算はしないと申し出した。困ったので検討中。現場を見ずに状況だけで判断するのは得策ではない。 旭はセンチピードグラスを県外の業者に頼んで吹き付けた。 途中で管理用の足場を作る必要があるのでそれに補助金を出すとか。そうすれば 10 年 20 年もつ。
田畑委員長	田が 1 反、草刈が 3 反の所もあり、田んぼをやるより草刈に手間がかかるような所はたくさんある。

(14:03 ~ 14:08 休憩)

田畑委員長
飛野委員

会議を再開する。

永見委員が芝生の効果についての話を出したが、自分の意見を言わせていただく。メリットとしては、これ以上良いものはない。芝生でもいろんな種類・手法があるが、私が見てきた中ではセンチピードグラスが最適だ。

取組については、受益者負担の話をしたが、その部分。浜田市の助成をしても三十数パーセント負担になる。個人的にやるなら負担が大きいので大変だろう。せめて5パーセントのラインに追いつける施策を考えるべき。

もう1つ、芝生が成熟するのに3年かかる。準備から吹き付けして3年後は雑草が一切はえないが、それまでは手作業がいる。普通は年3、4回必要な草刈が年1回、芝生が枯れる時期に草刈が必要。しかしこの方法が最も良いと思える。

田畑委員長

5パーセント以内に抑える話が出たが、最初から5パーセント以内となると中山間直払いのお金を使えという話になる。あまり偏った支援の在り方ではなくバランスも考えねばならない。

飛野委員

あえて話をしなかったが、それでも足りない部分がある。そこを何とかして欲しいという話。

田畑委員長

基本的には、中山間直払いのお金を使ってやるべきだと思う。

(3) 有害鳥獣被害 (イノシシ、クマ、アライグマ等)

飛野委員

飛野委員から願います。

イノシシ・クマで精一杯だが最近アライグマが出てきた。益田方面から始まって海辺を東へ上ってきたが、最近になって山間地に入ってきた。アライグマは徹底的に、目撃したらすぐ通報しなければならないほどたちが悪い。そこへシカとサルが下ってきてもいる。イノシシ用では対処できない被害が増えていく。

電柵とメッシュではシカ・サル・アライグマは防げないので、その3種への対策が別途必要だ。

布施副委員長

狩猟免許を持っている人に聞くと、更新は、複雑で難しいらしい。更新を簡素化するなり、新しい人が免許を取る場合、平日の試験だけでなく取りやすい日程を設定していただき、新規を増やすを講じてほしい。

獲ったものをどうするか。単価は広島の方が高いのであちらへ持っていく人もいる。ジビエ加工施設で処理した肉には需要がある。もっとジビエ工房を増やした方が良い。産業になる方向へ持っていくやり方をすれば、雇用も生まれ多方面に良いのでは。

永見委員

電柵補助、ワイヤーメッシュ補助をしてもらっている。電柵も一度補助してもらおうと5年間とある。電柵にももう少し取り組めるような方策

- を考慮して欲しい。我々の地元ではヌートリア被害が多い。ヌートリアは稲を食べる。もう少し補助金を融通して欲しい。
- 柳楽委員 網をしているが毎年のように鼻で掘り上げて入ったり、柵自体を倒して入ることがよくあるようだ。そもそも設置の仕方もある必要がある。鉄筋の太さも足りないという話を聞くので、改善が必要ではないか。自分で補修や補強するのが負担になっておられるようだ。
- 川上委員 里山としての扱いを考え直すべき。畑や田と家や庭はどの境界線がなくなっているから被害を受けやすいのでは。藪から何メートル、畑から何メートルというのを整理しなおすべきでは。川本町の田窪では、田んぼから山まで相当な範囲を伐採して、そこは網をしていない。そういうところに再度目を向けて地域としてやってみる、そのためのチャレンジを可能ならやらせて欲しい。
- 野藤委員 タヌキは見るがアライグマはあまり見ないので分からないが、まわってみるとアライグマの捕獲は檻か。
- 飛野委員 檻。
- 野藤委員 効果があるのが檻なら、檻を設置するしかないと思うが、駆除の一番いい方法はないだろうか。先進事例など。
- 田畑委員長 駆除するとすれば捕獲後殺処分しかない。巣穴や繁殖地も分からない。野兎などはアライグマに比べると被害は少ない。
- ワイヤーメッシュは個人購入か県から支給されたのか、出先によって異なる。知能が高いイノシシがいる地域もある。賢い個体は電柵の柵を選んで倒す。取付に問題があることもある。
- 布施副委員長 上野さんは、猟師だけでなく住民との連携が必要。ジビエは弥栄だけでなく近くにあれば良い。檻放置がもったいない。焼却場にもっていけるのはサイズ上限があるので、もっと資源として活用できるようになればいい。
- 飛野委員 せめて旭・金城に1つずつ加工場が必要だと言われている。受け入れ態勢的には弥栄・三隅をやっとこさ、それ以上は無理だと。だから旭・金城にあるべきだ。今は捕獲された方に捕獲手数料を払っている。加工場が受け入れできない場合、2000円少なくなるのでこの仕組みを研究してあげる必要がある。
- 川上委員 クマが出る所にイノシシは出ないと言われる。1つがポイントになる。そのポイントを捕獲することが大事なのでは。イノシシはいくらでもとっていい。とったらどうやって処理するか。邑智（美郷町）山くじらの加工場も極端に増えたらどうにもできない。弥栄も同じであり、金城・旭には処理場を設けるべきと思う。
- 永見委員 ジビエにはシーズンがあるのでは。農作物の被害は春から猟期に入るまでの部分なので、そこはどうなのだろう。
- また、うちの地元では防護柵をクマが倒してそこへイノシシが入る状況がある。クマには防護柵が通用しない。
- 田畑委員長 地元にはしか販路を持ってない猟師がいる。良い肉を売れる人が担うの

永見委員 が良い。
上野さんが言っておられることも検討すべきでは。50センチで焼却場にもっていけると言っても持っていく人はいない。

川上委員 販路がない人というのは、PRセンターや広島事務所とタイアップしているのだろうか。してないなら販路は見えないのでは。しっかり取り組むべきものとする。

(4) 農林道の危険木・支障木の撤去等

布施副委員長 布施副委員長からお願いする。
危険木は、市も十分対応してきてくれている。課題解決で町内において話し合っって危険木・支障木を除去した例がある。農林道の場合は市が優先的にやってくれているので、それ以外は自治会で処理する予算をつけて欲しい。

永見委員 これは市もある程度取組んでくれている。市道における対応も建設課に取組んでもらっている。伐採したものの処理については、どの程度のことをやるのか見えるような見えなような感じがする。

柳楽委員 年々対応されてきている気がするが、この間道路脇斜面が崩れて女子学生が被害にあった事例があった。出ている枝もだが、下がえぐれているといった部分、崩れそうに見える部分には対応してもらえないことがあった。先般の事例を見るに、そういうものも対応が必要ではないかと思う。

川上委員 メイン市道のパトロールがしっかりしているので気になる所はないが、法面の対応がされていないと感じる。木の根が出ているといったことに対応するべきだ。パトロールについては、車からではなく、定期的に歩いて見る必要がある。本当に必要なのは事前の確認だ。

野藤委員 点検すると相当な数が隠れていると思う。予算が厳しい、どこまでやるかの判断によると思う。ネックは予算。国の補助金がどうなるか。行政も、倒れれば緊急対策でやるが事前対策は難しいのだろう。小さい木なら地元ボランティアで伐れるのだろうが。最終的には予算の問題になると思う。

飛野委員 良い事業だと思っている。毎年執行率100パーセント。この事業の継続を望む。最近の事案で、ある母親が病気になって近くまでヘリコプターが来たが、自宅からそこまでの道が悪いので救急車が遠回りせざるを得なかった。そういう意味でもこの事業は充実するべきだ。

布施副委員長 旭は各地区から要望が出され順次対応されている。撤去後の場所の確保やバイオマス発電や薪として活用できる施策があれば良い。

田畑委員長 古い農林道は、土地を無償提供して作っている道が多い。木を伐らせてくれというと民地に入るので難しい事例もある。できることは地域がやるのが本来だろう。大きな木、もしくは年齢構成のせいでできない地域があるのも事実だ。賠償につながる可能性があるので、まず基本的には地域のものがやる、できないことは行政側の支援を得て、続けていく

べきだと考える。

布施副委員長 県道については、危険木は伐採基準があって、地元の人が危険や支障を感じても伐ってくれない場合がある。町内の了解のもとお金を出し合っ
て、自分たちで伐ろうという話をして大きな木を3本伐った事例がある。道を通るひとから見れば支障だが、持ち主にとっては支障ではないという例もある。原則は、地主での対応だと思うが、民間・町内・自治会・市、どこに頼むのか、明確にするべき。

柳楽委員 救急車に当たるから遠回りしたという話は問題ではないか。事前に分
かっていたのでは。

飛野委員 わかっていたから通らなかった。

柳楽委員 それなら伐っておくべきだったのでは。

飛野委員 車に傷がつくから通りたくない。

川上委員 うちの地元でもカーブの所に木があって遠回りした事例がある。その
後、迷惑をかけたことを反省した持ち主が伐った。だから点検をする必要がある。

田畑委員長 以上でよろしいか。
(「はい」という声あり)
おおむね2時間を経過したため、本日の意見交換はここまでとし、残
っている項目については、次回意見交換したい。

2. その他

(1)地域井戸端会の集約意見について

田畑委員長 資料をご覧ください。
昨年10月に開催された地域井戸端会で出た意見について、「各委員会で今後の政策形成等に活用していただきたい。」ということで、議会広報
聴取委員会で一覧にまとめられ、配布があった。

川上委員 今ここで、一つずつ見ていくことはしないが、この委員会所管に関す
ることでも多くの意見をいただいている。また、今回の3つ目のテーマ
についても20件ほどのご意見をいただいた。提言に繋がる内容もある
かと思うのでご確認いただきたい。

田畑委員長 A4、2枚を一枚にして提示されているが、A4、1枚ずつの方がうれし
い。
次に、今回のテーマの市長への提言時期を決めておきたい。
9月定例会議で委員長報告をし、市長へ提言するとしたスケジュール
で考えているが、どうだろうか。
(「異議なし」という声あり)
では、そのように進すすめる。
その他、委員の皆から何かあるか。
(「なし」という声あり)
最後に次回の開催日を決めたい。
(以下、次回開催日程について協議)

布施副委員長

では次回は2月28日（金）、一般質問終了後とする。

飛野委員が言われた、3月17日の視察の提案を皆さんに諮っていたきたい。

飛野委員

まちづくりで詳細を各自確認していただきたい。

古森局長

3月17日は休会日。

飛野委員

申し訳ない、3月16日の間違いだった。

古森局長

そうなると予備日なので、基本的には予定を入れないでいただきたい。

飛野委員

しかし、こういう行事があり、内容を知っておくことは必要だと思う。

田畑委員長

以上で、本日の委員会は終了する。

（閉 議 15時00分）

浜田市議会委員会条例第65条第1項の規定により委員会記録を作成する。

中山間地域振興特別委員会 委員長 田 畑 敬 二 ㊟